

地域の環境保全を通じた 地域内外の住民・学校間の交流拠点

栃木県：NPO 法人 グラウンドワーク西鬼怒 にしきぬ

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

農と食の大切さを知ることや、水域とその周辺の緑地の自然と環境を楽しむ体験教育

【経緯】

ほ場整備事業により生きもの環境に負の影響を与えてしまったことから、事業の受益者や地元住民が要望し県営農村自然環境整備事業に着手し、創生されたドジョウ水路、谷川保全地、白沢公園などの管理主体として食と農、自然と環境に係わる活動を通じて生態系保全施設の管理を行っている。



田んぼの学校入学式

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】土水路、水路魚道、谷川保全地、旧九郷半用水等

【活用した事業等】県営農村自然環境整備事業

【保全対象生物】ドジョウ、フナ類など

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 水路・保全地等の維持管理

①ドジョウ水路

- ・水路内に繁茂する植物の草刈、堆積土砂の浚渫、通水等の維持管理作業を毎年6月に実施

②谷川保全地・旧九郷半用水の保全管理

- ・河川内のゴミ除去及び法面の草刈の実施や会員の業者による谷川保全地の草地の除草
- ・斜面林下の水域周辺の清掃・浚渫
- ・夏場に田んぼの学校参加者とスタッフがコカナダモ（外来種）の草刈および浚渫

2. 水路・地元河川の生きもの調査

①谷川・旧九郷半用水

- ・地元大学生の協力を得ている。旧九郷半用水は田んぼの学校参加者が毎年調査を実施



ドジョウ水路の維持管理



谷川の保全管理

○継続した活動でこんな効果が！！



参加者による田植え

■保全地区の生息数減少の抑制及び増加

・ドジョウとフナ類は、水田水域で事業前のレベルを維持している。他の整備地区では低下しているため、一定の効果があると考えている。また、カワムツは増加傾向にある。

■地域住民等の環境保全意識の普及

・ドジョウ水路の草刈・浚渫や谷川のクリーン作戦には 100～150 人の参加を得ている。

■活動を通じた交流活動の創出

・活動後に地元の女性グループが作る昼食を囲み参加者の交流が図られている。

○課題・苦労した点

■参加者の獲得

・ゴミ袋など物品を提供してくれる企業等はあったが、現場での活動の担い手を確保することが課題である。

■スタッフの高齢化

・全体にスタッフや協力者が高齢化している。

○工夫した点

■他団体との連携による保全活動の周知

・地元の多面的機能支払交付金の活動をしている団体と連携し、保全管理活動の周知及び参加を呼び掛けあっている。

■学校教育との連携による協力者の獲得

・地元の高校（農業科）や大学に対して「生きもの調査」の実習場所として提供し、そのかわりに保全管理活動への参加を依頼している。

○活動の特徴！！

■高校や大学の実習と連携

・保全活動の担い手の確保として、高校や大学の实習と連携することで、持続可能な担い手の確保に繋がり、活動の継続が可能となっている。



○団体の概要は？

- ・平成 9 年度に設立され、平成 17 年に NPO 法人化。
- ・活動エリアは栃木県宇都宮市白沢町、西下ヶ橋地域。
- ・NPO 法人であり、人数は約 70 名。
- ・年間運営費は指定管理委託費 58%、契約管理費 34%、会費 5%、補助金 3%となっている。
- ・年間活動日数は、約 20 日である。

